

図書館だより

第30号 平成15年12月1日
高松工業高等専門学校図書館
TEL (087) 869-3813
FAX (087) 869-3948

1000ページ読破記 ☆優秀賞作品☆

ロシアを想う

3年C組 黒田 望

図書館の本の背表紙には数字が振られている。その中の980番が何の本か知っている人がいるだろうか。そこにはロシア人の作品がある。私がこの夏休みに読みあさった本だ。有名な作品から、初めて知った作品まで、とにかく980番の本棚の本ばかり読んだ。馴れないロシア人の名前も、読み進めることで区別がつくようになった。ロシア人の名前は名・父称・姓で構成されていて、さらに愛称もある。そのため、一人の人間がいろいろに呼ばれ、別人の人だと思えることが多かった。

なぜロシアか。私は、二年前ぐらいからロシアに興味を持ち続けている。新聞を読んでいても、ロシアという文字についつい反応してしまう。理由は自分でもわからない。今まで、ロシアに関係したものといえば、家にあったロシア民話集と、漫画「女帝エカテリーナ」しか思い浮かばない。共に何度も読んだ作品だが、直接の理由とも思えない。

ただ、私のロシアについてのイメージは小さい頃読んでいたロシア民話集の影響が大きいと思う。広くてでかくて壮大なロシアの大地と、ウオトカとボルシチとペチカにあこがれがある。特に、ペチカという語の音の響きが大好きだ。

話しかわかるが、今回いろいろな作品を読んで外国の作品を読むときの楽しみ方が変わったような気がする。

一つは、翻訳されている文章を逆に翻訳しなおしてみることだ。読んでいて気に入った言葉や文章が、原文ではどのように書かれていたのかを考えてみる。一単語だったら予想も立てやすい。正しいかどうかは別にして、持てる知識を使って「あれかな、これかな。」と想像している間が楽しいのだ。

もう一つ、駄洒落がわかったらとてもうれしい。例えば、

Q「感謝祭に人気のある国はどこでしょう。」

A「トルコ。」

というなぞなぞがあっても、トルコの理由がわからない。これが、turkey（七面鳥）Turkey（トルコ）のことは知っていれば簡単にわかる。訳注もなしにわかれば、とてもうれしいと思う。こういう駄洒落のような会話は、国を問わずいろんな作品に出てくる。もちろん読んだ中にもいくつかあった。残念ながら訳注を読むまで何のことかさっぱりだったが。

私のロシアへの夢は尽きることはない。赤の広場やイルクーツク、ペテルブルグなど本を読んで知った場所、作品の舞台となった場所へ行ってみたい。そして、シベリア鉄道に乗ってロシアを旅する、これが私の夢だ。

（くろだ・のぞむ）

ロシア短編集 川端香男里・望月哲男・金澤美知子 訳
死の家の記録 ドストエフスキー 工藤精一郎 訳
罪と罰（上・下） ドストエフスキー 工藤精一郎 訳
クロイツェル・ソナタ 悪魔 トルストイ 原卓也 訳
外32冊 計10,035ページ



平成15年度千頁読破記入賞者

- 優秀賞 ロシアを想う 3年C組 黒田 望
- 佳作 日韓共催 FIFA WORLD CUP
1年2組 大浦拓也
- 佳作 私の『乙一』感
2年E組 村河智子

応募数…175編

